



明日へ未来へつながる農業②

竜丘保育園、時又保育園、竜丘小学校の園児と児童に、1年をかけて、米作りだけでなく、田んぼの生き物や水、地元の農産物などを学び、実際に体験する場を提供しています。

「あぐりの田んぼ」は、地元と都会に住む人々が交流を行っていた「あぐりの風」が米作りをしていた田んぼでした。その後、地元の子もたちと一緒に行っていた「あぐりの田んぼ学校」が発足。地元農家の熊谷伊久夫さん、前澤正信さんを中心に、地域の生産者、行政、保育園、小学校、「あぐりの風」メンバーなどが交流を持ちながら、田んぼや米作りなどを通して、子どもたちの食農教育に力を注いでいます。



楽しいだけじゃなく 大変だった思い出も大切 田んぼで学ぶ「食べること」

あぐりの田んぼ学校(飯田市)

“気付き”を持てる 本物の体験

「まだ幼い園児たちを相手に」どうしたら、田んぼのことをわかってもらえるのか悩みだった」と話す熊谷さん。田植えなどの前には、事前に園で説明や練習を行います。「話をするだけでは伝わらない」ともみまきの機械を持って行くことも。自分からやってみたくなる仕掛けを作っています。

稲穂や田んぼの生き物観察、水の勉強など、田んぼに関係するさまざまなカリキュラムが組まれています。「押し付けではなく、自分で気付かないと本物にはなっていない。お米は草取りして、いろいろとやって、1年をかけてやると食べられる、そんな“気付き”を持ってもらいたい」と願っています。

2005年に始めた「あぐりの田んぼ学校」。初年度に年長だった子どもたちは、今小学6年生になりました。保育園で米作りを経験した子どもたちは、小学校に上がっても、給食の食がよく、残さないのだそうです。「成果がみえてきた」と熊谷さんたちも喜んでます。農業の繁忙期に重なることもある「学校」は、

田んぼは楽しいワンダーランド



「あぐりの田んぼ」で草取りをしながらセミ捕りも



田んぼでヤゴを発見

「あぐりの田んぼ学校」では、米作りだけでなく、田んぼに棲息する生き物や水がどこからくるのかなど、多方面から学ぶカリキュラムを組んでいます。7月、竜丘小5年生が管理する田んぼで、竜丘保育園の園児たちが、四方圭一郎さん(飯田市美術館学芸員)から、田んぼの生き物について話を聞きました。網を使い、田んぼの泥をすくって、ヤゴやミズカマキリ、コオイムシなどを見つけ、水槽に入れて観察。アマガエルとトノサマガエルの違いなどを聞き、目を輝かせていました。秋には、田んぼでトンボが飛び交う姿を観察する予定です。



四方圭一郎さんと一緒に、田んぼの生き物を探す園児たち



草取りの後、きれいになった田んぼの泥の中に寝そべって遊びだした竜丘保育園の園児たち。稲の間にすっぽり隠れて大満足の表情。思いもつかない子どもたちの行動に保護者たちもびっくり。「あぐりの田んぼ学校」ならではのほほえましい光景

記事に関する問い合わせ ● 飯田市農業振興センター ☎0265・21・3217